

# 明日も元気で来いよ！

104

## 12月の玄関掲示



いよいよ12月。師走を迎えました。  
7日は、二十四節気の「大雪」です。本格的な冬、雪の季節の到来です。

この季節、冷たく澄んだ空気の中、夜空高く  
に凍ったように明るく光る月は、見ているだけ  
で心が洗われるような気がします。

今月の玄関掲示は、そんな月の様子を言葉に  
してみました。右に書いているように、「月」は秋の季語です。また「月天心 貧  
しき町を 通りけり」という与謝蕪村の句があります。これも秋の句だといわれ  
ています。ただ、実際に月の高度は、冬が一番高いです。俳句の世界の約束事など  
に関しては、全くの素人ですので、感じたままに言葉にしてしまいました。子  
どもたちには、このことも含めて話をしておきました。季節の植物として柊とシ  
クラメンが添えられています。相変わらず、立体的で、本物のようなできばえで  
す。個人懇談等で、ご来校の際は、ぜひご覧ください。

**クイズを推理し、見事に的中！！** 3年生の○君は、玄関掲示を見て、私が出す  
クイズを予想し、そのことを12月1日の「た  
くましく・・・」で、次のように書いていました（一部を紹介します）。

今日は、学校の「げんかんけいじ」がかわっているのを見つけたのでよんでも  
みました。その中に「月天心」という言葉が見つかったので、たぶん校長先生のクイズ  
に出そうだなと思い、調べてみました。

（家に帰って）「月心？」「心決？」というように思い出せなかったけれど、学校の  
ホームページで調べてみました。すると「月天心」だと思い、調べてみました。

。。。。。。すると、蕪村のはいくで次のように出てきました。意外とすぐに出てき  
ました。

名月が中天にこうこうと輝く秋の夜更け、小家がちの路地の多い寂静  
まったく貧しい町を通りかかったよ

蕪村の俳句は、「月天心 貧しき町を 通りけり」です。

前号でも書いた通り、私の話を契機に、子どもがいろんなことに興味をもち、  
自分の世界を広げてくれる。こんなうれしいことはありません。しかも、掲示さ  
れた文を見て、自分なりに、クイズの問題を推理し、そこから調べています。こ  
のすばらしい好奇心、意欲をこれからも大切にしてほしいと思います。

ところで、「月」は、秋の季語です。したがって、蕪村のこの句は秋の夜空をう  
たたるものだといわれています。この句に関しては、「蕪村は、実際に空高く輝く  
月を見て、この句を作ったのだろうか」「想像して作ったのではないだろうか」など、  
様々な意見があります。また、「実際に天心に月が輝くのは冬だ。月が秋の  
季語だからといって、この句の表す情景が秋だとは考えにくい・・・」といった  
意見もあります。（インターネットで調べてみました）

一つの俳句をめぐって、天文に関する事や、当時の社会の風習なども根拠に  
して様々な解釈がなされる。とても興味深いです

答えが、一つでない。どの意見が正解かもはっきりしない。でも、そのことを、  
自分が持っている様々な知識や情報を総動員して考え、みんなで意見を交流して  
考えを深めていく。これは、私たちが子どもたちに求めている学びの姿です。す  
ぐに答えがみつかる。正解といわれる回答以外の考えは、捨ててしまう。これで  
は、物事を深く考える態度は育ちません。

ノーベル医学・生理学賞を受賞されたと東京工業大学の大隈良典氏は、「現在、  
ノーベル賞受賞者が日本から次々と出ているのは、過去の遺産を食いつぶしてい  
るに過ぎない。すぐに役立つ研究だけでなく、地道な基礎研究をこそ大事に支え  
る社会になってほしい」といった趣旨の発言をされています。

効率、即効性が大事という考え方には、危険です。さっと物事を処理し、結論を  
出す力は確かに必要です。しかし、客観的、相対的にじっくり物事をとらえ、考  
える力はもっと大事です。現代は、ICTが発達し、あまり考えることなく、いろ  
んなことが、ボタン一つでできるようになってきています。そんな世の中だから  
こそ、時間をかけて、ゆっくり、じっくり考えることが必要ではないでしょうか。